今年度、新しく赴任された先生方の推薦図書をご紹介します。

『宇宙から学ぶ』 毛利衛・著（岩波新書）

この本は、1985年（昭和60年）に日本人初の宇宙飛行士に選ばれ、1992年（平成４年）にスペースシャトルに搭乗した宇宙飛行士であった筆者が、二度の宇宙飛行をとおして得た筆者独自の新しいものの見方、考え方について記したものです。その考え方を筆者は「ユニバソロジ」という筆者独自のことばで示しており、それ自体も興味深いものでしたが、この本の中で私が特に印象に残っているのは、「フォロワーシップ」ということば、考え方です。

閉ざされた飛行船の中で、限られた乗組員たちが課せられたミッションを遂行していくうえでは、力強いリーダーの存在が必要ですが、リーダーを支える人々の「フォロワーシップ」がなければプロジェクトの成功はないと筆者は述べています。

近年、社会の様々な場面で「協働」ということばが使われるようになりましたが、これも「フォロワーシップ」の一つの言い換えになるのかもしれません。

高北生の皆さんにも、リーダーシップを発揮するとともに、時にはこの「フォロワーシップ」を意識しながら、様々な場面で活躍してもらいたいと思い紹介しました。

『なんのために学ぶのか』池上彰・著 （SB新書）

今回紹介する本は、ニュースの解説でお馴染みの池上彰氏の著作です。ある大学での講演の原稿を基に編集したそうですが、高校生の皆さんにも通じる内容の本です。

著者は、できるだけ広い視野を持ってほしいと述べています。そして、「社会に出たとき、問題意識や、問題を次々に分析する力を持てるようになれば、世の中をより良くするためにそれぞれの立場で貢献できる。そのような自分なりのものの見方を身につけていく。」ことが必要であり、「教養としての学びを強調するのは、それが自身の人生を豊かにしてくれたという実感があるからです。学んだことが思わぬところで役に立ったという経験も数え切れないほどしてきました。」とも述べています。

皆さんもぜひ一読し、広く教養を深め、受験のためだけでなく、将来の人生を豊かにする或いは長い目で役に立つ、そんな思いで様々な教科の学習に取り組んでください。

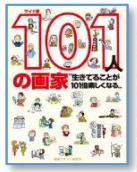
『英語の読み方　ニュース、SNSから小説まで』北村一真・著（中公新書）

昨今のスマートフォンやタブレットなどのデジタル機器の普及により、私たちは以前より手軽に、気軽に英語ニュースに触れることができるようになりました。しかし、教科書の英文と違い、ニュースやSNSにおける英語は理解するのに時間を要するものが多いです。この本では、実際のニュース記事やSNSの投稿を用いて、それらを理解するための読み方やヒントを教えてくれます。英語力を鍛えたい。実際の英語ニュースに触れてみたい。そう思っている人におすすめの一冊です。

☆先生方の推薦図書は、カウンターに展示中です。貸出しもできます！

『101人の画家』早坂優子・著 (視覚デザイン研究所)

この本は、よく知られている画家101人の人生を紹介した本です。画家一人一人の生い立ちから、泣き笑いの人生における個々のエピソードをたった２ページの漫画でまとめられています。彼らが巨匠と呼ばれるようになるまで、どんな出来事があったのかを知るにはうってつけの本です。年表や美術史解説もあわせて掲載されているので、画家が生きた時代背景も頭に入りやすく、美術に興味があってもなくても読んでほしい、おすすめの１冊です。



『嫌われる勇気 自己啓発の源流「アドラー」の教え』 岸見一郎ほか・著（ダイヤモンド社）

他者の目と評価を気にして、自分のしたいことができないと悩んでいる人にこの一冊をおすすめします。「嫌われる勇気」は嫌われる人になる勇気ではなく、他者の目と評価から解放され、自由に生きる勇気、そして幸せになる勇気だと考えます。

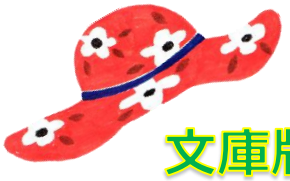
本書は、フロイト、ユングと並び「心理学の三大巨頭」と称される、アルフレッド・アドラーの思想(アドラー心理学)を、「青年と哲人の対話篇」という物語形式を用いてまとめた一冊です。アドラーの思想を知ることによって、あなたの悩みは少し楽になるのかもしれません。

『夜のピクニック』 恩田陸・著 （新潮文庫）

高校生へのおすすめということで、悩みましたが、これにしました。「歩行祭」という夜を徹して全校生徒が80kmを歩き通すという行事の中で、さまざまな想いを抱えて歩く高校生たちの姿が描かれています。実は私が以前勤めていた学校にも同じような行事があり、40kmを歩いたことがあるので、登場人物たちの辛さも、そのときの生徒の様子も多少わかります。この本は夜でしたが、私は日中だったので、暑さも加わり大変だったのを覚えています。でも、ただ辛いだけではなく歩き終えた後に充実感があったことも、また覚えています。「ただ歩くだけなのに、何故こんなにも特別なんだろう。」という問いかけがありますが、この答えは歩いた者にしかわからないご褒美のようなものかもしれません。しかし、この本で疑似体験をすることはできます。同じ高校生として、皆さんはどのような感想を持つでしょうか。

恩田陸さんの著書では、他に『蜜蜂と遠雷』も有名ですね。こちらはピアノコンクールを舞台にした作品ですが、クラシックが分からなくても大丈夫です。文章を読んでいると言うよりは、音楽を聴いている感覚が味わえる作品です。長編小説なので時間はかかりますが、長期休みにじっくり手に取って読みふけってもらいたい一冊です。

※書影は「版元ドットコム」より引用



文庫版 購入しました

『項羽と劉邦(全12巻)』横山光輝・著（潮漫画文庫）

『はだしのゲン(全7巻)』中沢啓治・著（中公文庫）

『ブラック・ジャック(全12巻)』（手塚治虫文庫全集）